

### オサムシのなかま

地面をはっていることが多く、小さな昆虫などを食べている食肉性の甲虫です。



オサムシのなかま

### カミキリムシのなかま

ひじょうに長いひげ（触角）をもっている魅力のある甲虫ですが、幼虫は樹木や果樹の幹に入って食い荒らす害虫です。

### タマムシのなかま

ひじょうにきれいな甲虫です。有名な法隆寺の玉虫のずしはこの甲虫のはねを使って作ったものです。

### 世界の甲虫

#### (1) バブアニューギニア

密林におおわれたニューギニア島の甲虫などです。ひじょうに変った形をしている種類もいますし、また、熱帯には全体が輝き美しい甲虫が多いようです。

#### (2) アフリカ

熱帯地方の甲虫は美しい種類が多いようです。特にタマムシはひじょうにきれいです。また、ツノハナムグリ類はひじょうに大形で、アフリカ中部から南部にかけて分布し、原生林を空高く飛んでいるそうです。

#### (3) 東南アジア

美しい甲虫が多く、特にタマムシは見事です。バイオリンムシのような変った形をした甲虫もいます。タイオウ（王様）ゼミは世界最大のゼミです。

#### (4) ソビエト

亜寒帯、温帯ですので、どちらかといえば黒っぽい地味な色をしている甲虫が多いようです。

### ゼミのなかま

夏の風物にかかせない昆虫です。山形県内にはニイニイゼミ、アブラゼミ、エゾハルゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクホウシ、ヒグラシ、チッチゼミ、エゾゼミ、コエゾゼミ、アカエゾゼミの10種おります。

(板垣記)

### 常設展示もご覧ください

#### 本館

山形の自然 山形のなりたち、森林の科学、植物の世界、昆虫の世界、野鳥の世界、暖流と雪の山形ほか

山形の歴史 山形のあけぼの、ひらかれた出羽国、民俗 武士の動き、藩政と庶民のくらし、米づくりのくらしとこころ、雪と山形ほか

#### 分館

山形の教育 藩校と寺子屋、学校のはじまり、昭和初期の教育、戦時下の教育、新しい教育ほか

山形県立博物館(本館) ☎990 山形市霞城町1の8  
TEL(0236)-45-1111

山形県立博物館(分館) ☎990 山形市緑町2-2-8  
教育資料館 TEL(0236)-42-4397

(駐車場が完備しています)

# 昆虫展

—チョウとカブトムシと—

4月18日(土)～6月7日(日)

### 開催にあたって

美しいチョウやカブトムシを求めて、山野を走りまわった体験が、はじめての自然との交わりであり、出会いであった方も多いことでしょう。このような体験は、鮮烈な思い出として、いつまでも心のふるさととして生き続けていくものです。

南陽市の板垣輝彦氏・藤田幸夫氏もチョウやカブトムシの美しさ、神秘さにとりつかれてから久しい。昆虫を介しての自然との交わり、出会いが強烈であったことが、いまでも昆虫を求めて、県内はもちろん海外までも採集に出かけさせているでしょう。

本展は、両氏が所蔵する膨大な昆虫資料のうちから、チョウとカブトムシを中心に展示し、分類・分布上の問題を探ろうとするものです。

昭和56年4月

山形県立博物館

## ~~~~~ 山形県の蝶の分布 ~~~~~

ちょうが はね りんぷん りんし  
蝶や蛾のように翅に鱗粉をもっている動物のなかまを鱗翅目と  
いいます。日本列島は南北に細長いので、鱗翅目も寒地性のもの  
から亜熱帯性のものまで、多種多様で、種類も多く今までに約  
3,000種ほど確認されています。

そのうち蝶は約200種、蛾は約3,000種といわれています。蝶  
は研究調査がゆきとどいてるので、今後種類数がふえる可能性  
はありませんが、蛾の研究はまだ不十分なので、将来多数の新種  
や未記録種が追加され、何年か後には、日本の鱗翅目は、5,000  
種をこえるであろうといわれています。

日本列島全体に分布する蝶類の約200種のうち、山形県内には  
113種分布するといわれています。過去20年～30年の間に、  
111種～112種という記録が残されていますので、その間に、新  
たに2種類の分布が確認されたことになります。

山形県産の蝶類の研究に貢献された多くの方の記録があります。



ギフチョウとヒメギフチョウ

- (1) ギフチョウ・ヒメギフチョウの分布
- (2) ウスバシロチョウの白化型・黒化型の研究  
故 白畑孝太郎氏（元県立博物館嘱託）
- (3) 中津川でギフチョウの分布確認  
故 寺嶋 新一氏（元小松学校教員）
- (4) チョウセンアカシジミの亜種発見（県指定天然記念物）  
藤田 幸夫氏（現南陽市立吉野中学校）  
大類 貞夫氏（現新庄市立萩野中学校）

その他にも、113種の分布の確認にいたるまで多くの方々が活  
躍されています。

新種の発見は長い年月をかけた調査研究によってなされるので  
すが、ある時予想外の新事実が発見されるものです。研究には、  
始めがあっても終りが無いことはいうまでもありません。

山形県内には現在蝶類は次の8科113種分布していることにな  
ります。

◦ セセリチョウ科	16種
◦ アゲハチョウ科	11種
◦ シロチョウ科	8種
◦ シジミチョウ科	35種
◦ テングチョウ科	1種
◦ マダラチョウ科	1種
◦ タテハチョウ科	28種
◦ ジャノメチョウ科	13種
計 8科	113種

以上ですが、これからも新たな種の分布が発見される可能性が  
あります。

次に、山形県産蝶類の分布で、特に興味深い種類をあげてみま  
しょう。

- ウスバシロチョウ  
白化型と黒化型が分布している。
- アオシアゲハ  
南方系・北上種で、年次ごとに北上している記録がある。  
対島暖流との関係が深く、迷蝶として、内陸地方で採集記  
録がある。  
小国（昭 29.8 藤田幸夫）  
舟形（昭 54.8 鈴木弘健）
- ギフチョウ  
日本特産種。春の女神～だんだら蝶の名で、万葉の頃から  
日本人に文学上でも親しまれている蝶である。
- ヒメギフチョウ  
ギフチョウとヒメギフチョウの混せい地帯がある。  
（大石田・月山沢他）

- オオヒカゲ  
意外に分布が多い。
- シジミチョウ  
種類が多い。
- ベニヒカゲ  
県内ただ一種の高山蝶で飯豊・朝日・月山・鳥海の諸  
高山に分布するが、吾妻・蔵王の奥羽山系には分布しな  
い。
- オオムラサキ  
国蝶・分布が広い。
- チョウセンアカシジミ  
天然記念物
- ヒメシジミ
- スギタニルリシジミ
- ヒメシロチョウ

（藤田 記）

## ~~~~~ 日本の甲虫・世界の甲虫 ~~~~~

### 日本の甲虫

#### コガネムシのなかま

全体に光沢のある美しい甲虫です。幼虫は土の中にあっ  
て植物の根を、成虫もいろいろな植物の葉を食べるので害  
になることが多い甲虫です。しかし、中には牛や馬の糞を  
食べる変ったコガネムシもいます。カブトムシもコガネム  
シのなかまです。

#### クワガタムシのなかま

おすがくわをもっている変った形をした甲虫です。幼虫  
は朽木内にすんでいます。

#### マイマイカブリのなかま

日本にしか見られない珍しい甲虫です。長い頭をカタッ  
ムリ（マイマイ）につっこんで食べるのでこの名がありま  
す。